



今日は2時間を費やしての校内競書会でした。中学は行書です。1年「万里一空」、2年「笑門来福」3年「理想の実現」の文字を筆脈の連続性を意識しながら心を込めて書いていました。日本の**伝統文化**を味わいました。

そして、本日が給食は2学期最終日でした。生徒は調理員さん方が調理している姿を見ることはできません。衛生面からその部屋には入れません。給食委員は配膳室に置かれたものをワゴン車に載せて教室へと運んでいきます。

ある時、調理員さんの一人が給食担当の先生にこう話されたそうです。

「いつもワゴンを持って来るときに『**ごちそうさま**』って言うのが、**本当にうれしくて**。あれは先生が指導しているのです

か？」

その先生は指導した覚えがありません。周りの先生も同様です。そこで様子を見て、3年の該当生徒に給食担当の先生が聞きました。

「自分たちで話し合っ、感謝の気持ちを伝えようと、始めました」。

「『ごちそうさま』を言うと、**奥の方から『ありがとね〜』**と言ってもらえるので、すごくうれしいです」。

と笑顔で教えてくれたそうです。

心温かなことばの交流が給食後の配膳室で行われているとは知りませんでした。ずっと**語り継ぎたいエピソード**だと思いました。

このような温かいことばを今年もたくさんいただきました。

「私は岡崎市民なんだけど、朝、東部中の子たちがあいさつをしてくれて、とても礼儀正しいので、うれしくなって、電話をしました」

という声もありました。また、4年ぶりに大きな行事に来賓の方を招くことができたため、来賓の方からも随分お褒めの声をいただきました。

もちろん、まだまだ至らない部分は多々あります。指導の必要性を感じることは多いですが、東中生は心根の優しい子ばかりなのを教職員誰もが感じていきますので、良きところを語り継ぎながら、**より良き伝統（東中文化）**にしていきたいです。